



## 元気企業 訪問

株式会社  
アイテス

代表取締役社長

五十嵐 靖行さん

い が ら し や す ゆ き

弊社が評価されているのは、お客さまへの丁寧な対応

— 具体的な業務内容と評価されている理由は？ —

弊社のビジネススタイルは、企業が企業に対してモノやサービスを提供するいわゆるB to Bです。だから、一般消費者との接点はありませんが、私たちが携わったものは、スマホやパソコン、自動車、家電製品、太陽光パネルなど、皆さんの周りに沢山あります。展開する事業は4部門で、具体的には

①解析・信頼性評価事業…電子部品各種データ収集から故障解析



保守・修理事業

業用機器およびパソコンの修理  
④ウエハー加工事業…ウエハー加工サービスおよび販売となります。

事業部によって顧客は異なりますが、評価していただいている点は共通して「お客さまへの丁寧な対応」だと思います。例えば故障の分析・解析の場合、故障の原因をアウトプットして終わりではなく、なぜそうなったのか、こうすれば故障の原因が解消されるのではないか、という考察やソリューションをお客さまに提示・提案しています。この丁寧な対応が評価されているところだと思っています。

成功すれば世界初！  
SiCの欠陥を低コストで選別する検査装置開発にチャレンジ

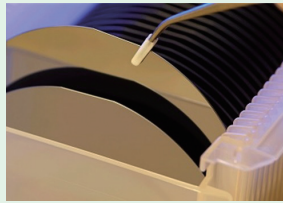
— サポイン事業の具体的な内容を教えてください —

近年、省エネ化・省電力化への意識が高まり、電気のムダを極力少なくできるパワー半導体の需要が高まっています。現在、パワー半導体の

主要素材はSi（シリコン/ケイ素）なのですが、このSiより優れた素材がSiC（炭化ケイ素/シリコンカーバイド）と言われるものです。Siパワー半導体に比べてより高い電圧に耐え、より高い動作温度に耐えることができます。つまり、よりパフォーマンスが高い素材ということで、EV（電気自動車）を始め多くの産業機器に大きなメリットをもたらします。

ところがこのSiCには、結晶欠陥という潜在的な問題があり、デバイスの動作不良の原因となることがあります。大手の半導体メーカーでは、欠陥を除去する研究や、不良品の選別などに取り組んでいるのですが、不良品を選別するプロセスには多くの時間とコストがかかり、必然的に単価に跳ね返ってきます。

サポイン事業では、選別の際に見にくい欠陥を早期に、ローコストで見つけ出すだけでなく、欠陥箇所が発見できないまま市場に出回り、結果不良品が発生する製品の潜在不良も見つけてしまつていくという欠陥解析装置を開発しています。



ウエハー加工事業

欠陥解析装置を開発しています。

産業支援プラザのおかげで私たちは研究・開発に集中できる

— 産業支援プラザとのつながりは？ —

産業支援プラザ主催のセミナーや講演会に参加したり、支援サービスの利用などでお付き合いは以前からありました。欠陥解析装置の開発に際して、このプロジェクトには相当な資金が必要になると思い、サポイン事業に応募することとし、産業支援プラザがその窓口となっていたので早速相談に伺いました。

サポイン事業の支援を受けるには、詳細な研究開発計画を立て、申請を行い、審査の結果採択されると支援が受けられます。したがって、同事業に採択される事業は「難関をくぐり抜けた、選り抜かれた事業」なのです。

応募に際して、産業支援プラザには申請のイロハから指導をいただきました。経産省との複雑で煩雑なやりとりの最前線に立っていたいただき、我々が研究開発に集中できるよう計らってくれました。また、採択され

国が推進する「グリーン成長戦略」を追い風に、4つの事業が有機的に連携し、新しい価値創造に取り組んでいく

1993年、日本IBM(株)野洲事業所の品質保証部門から分離独立。電子部品を中心とした分析・解析、試験サービス事業を中心に、検査装置開発、電子機器修理、ウエハー加工の4事業を展開している。国が強力に推進するグリーン成長戦略の14分野のうち3分野が同社の目指す方向と一致しており、これを追い風にしてさらなる発展を目指している。

るための要件事項をまとめるにあたり、産業支援プラザの担当者から教示された「採択されるためのポイントは何か」、「審査員は何を見ているか」、「どこを評価し、どこを評価しないか」といった視点は、サポイン事業に関係なく社内でも新規プロジェクトを立案し、実行計画を立てる上で大いに役立っています。

国が進める「グリーン成長戦略」に同期し、この追い風に乘ってさらなる発展を図る

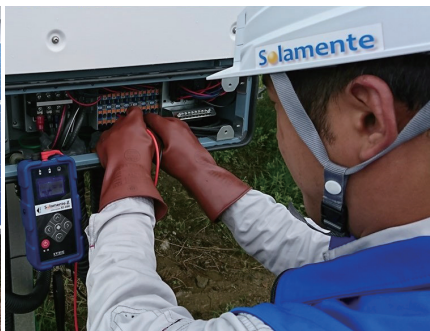
— 今後の展望は？ —

国が推進するグリーン成長戦略「プラン」の14の重点分野の中に、弊社の事業に深く関係する3つの分野があります。①半導体・情報通信産業 ②住宅・建築物産業/次世代型太陽光産業 ③資源循環関連産業です。

①については、およそ4半世紀以上前からパワー半導体の評価・解析に注力しており、特にSiCの欠陥問題についてはサポイン事業での欠陥解析装置の開発に取り組んでいます。②では、太陽光発電の稼動状態について、特に安全面を重視し監視できる装置を、IT技術も採用しながら住宅や施設屋根の太陽光発電市場への投入を検討しています。③



検査装置開発事業



では、太陽光発電所のリユース、リサイクル、廃棄といった第2次市場の活性化に対し、パネル検査技術のノウハウが活かせると考えており、

そのための装置開発に取り組んでいます。さらに電子機器保守・修理サービス事業部は、故障した部位を修理するだけでなく、長期にわたり継続使用できる対策の提案を行うことを目指しています。この既存設備の長期継続使用のサービスコンセプトはグリーン成長戦略が掲げる循環型社会の実現に大きく寄与するものと考えます。

現在我が社は野洲と栗東に分散しているのですが、今年7月、瀬田に新しい建屋が完成し、4事業部が1箇所に集まります。そのシナジー効果に期待すると共に、各事業部の技術やノウハウを有機的に連携させ、これまでにない新しい価値の創造にチャレンジしていきます。



解析・信頼性評価事業